

## 僕のひとり言 夢

僕はよく夢を見る、映画館に夢かめていたページの  
そしてその夢は映写機がトラブルをおこす、  
つい先日もマックで考えことをしていたらついついウトウト、  
そのまま夢の中へ——気がつくとも僕は一人  
映写室で映画を映つしている、映つしていた映画は  
みおぼえのあるようなないような、あっそうす”と前に  
〇巾着の〇X△座にいた時に映つしたことのある  
「霧の中の風景」？とかい文市弟が父親さがしの旅の  
物語(ロードムービー)淋しげな少女の顔と悲しい  
メロディーが心に残る映画だ、又その文市弟に僕と姉を  
かさねて観ていたのをおぼえている、映写機は  
古い機械だ、今のシネコソの機械とはちがう、  
僕が映写技師をしていた頃の機械だ、2台の  
映写機にフィルムを分けて映つす機械だ、  
“ガチャン”と言う音と共に映写機は停まった、僕は  
映写機を動かそうとするが、停まったはずの機械の  
モーターが回っている、フィルムを掛けなおし映つすことが  
できないう、汗が容顔から流れる時間だけが過ぎてゆく  
——トコトコとテーブルをたたく店員のつめたい音で  
目が醒める、僕のひとり言。



講評

これ自体が映画のような作品ですね。マクドナルドが映写室になって、その光が暗闇の中でぼんやりと灰色に霞んだ『霧の中の風景』を映し出す。ぼくも見たことのある映画です。2台の映写機で交互にフィルムを付け替えていく様子も、『ニュー・シネマパラダイス』や『刑事コロンボ 秒読みの殺人』を思い出せて、懐かしくなりました。美しくも怖い夢ですね。

(選者・星野)